

連携医院のご紹介



内科(糖尿病) 久安医院

〒733-0035
広島市西区観音本町2丁目7-23
電話/082-291-6645
院長/大久保 雅通
診療科目/内科、糖尿病



久安医院外観

「スムーズな医療連携を心がけて」をモットーに診療をされている、西区観音本町にある内科(糖尿病)久安医院の 大久保 雅通 院長にお話を伺いました。

○いつ開業されましたか。

平成17年の4月です。
久安医院開業当初は義父が院長として外科診療を行っておりましたが、義父より継承する形で現在は糖尿病・甲状腺疾患を中心とした診療を行っています。

○開業されてから今までのことを教えてください。

現在は主に糖尿病・甲状腺疾患を中心に診療を行っていますが、開業以前の平成13年より副院長として久安医院の業務に就いてありました。

当初は外科内科として診療を行っていたこともあり、糖尿病・甲状腺疾患問わず多くの症例の診察を行いました。また義父は外科医として多数の手術や治療にあたっておりましたので、大学病院勤務時代には経験する事ができない事を多く経験する事ができました。その甲斐もあり、現在でも糖尿病・甲状腺疾患以外の診察を行う事が多々あります。

これからも、地域医療に根ざした医療を心がけていきたいと考えています。

○力を入れている事などを教えてください。

クリニックとしての診療体制の強化に力を入れています。

これまで医師・看護師・管理栄養士の診療体制でしたが、今年度から検査体制の強化を行うために臨床検査技師を採用し医療提供のレベルアップを図っています。

糖尿病は合併の多い病気として知られています。罹病期間の長期化は末梢動脈疾患(PAD)や糖尿病性腎臓病(DKD)の発症にもつながってしまいます。

これらの発症を防ぐためにも、PWV・超音波検査・神経伝導速度測定等の検査体制の充実や

血液検査結果の迅速な提供、看護師や管理栄養士による在宅面における各種指導などを積極的に行ってあります。

また昨年9月から新電子カルテ(PHC製)・統合型情報システム(日本光電製)の導入を行い、より的確な診察を行うとともに患者様にとってわかりやすい医療の提供を行っています。

○毎日の診療で大切にされている事や、やりがいは?

糖尿病は完治を目指すことが大変難しい病気です。また、多くの患者様は長期間の通院が必要となります。それゆえに患者様に寄り添った診療を心がけています。病気のこと以外に生活面における不安やご家族の事などなるべく患者様1人1人に時間をかけて診察を行っています。

その様な状況で患者様の笑顔を見ることができが日々のやりがいとなってあります。

○県病院はどんなところでですか。県病院に一言。

平素より各科の先生方には大変お世話になっています。それゆえに、私たち地域医療を行う開業医にとってとても心強い存在であると感じています。先生方からの返書も大変丁寧かつ正確な内容でお送り頂けますので安心して日々の診療を行なう事ができます。またK Bネットの拡充は、情報連携を深める上でも大変重要なツールであると考えています。

糖尿病は合併の多い病気として知られています。罹病期間の長期化は末梢動脈疾患(PAD)や糖尿病性腎臓病(DKD)の発症にもつながってしまいます。これらの発症を防ぐためにも、PWV・超音波検査・神経伝導速度測定等の検査体制の充実や

【取材後記】

丁寧に取材に応じて下さりありがとうございました。糖尿病の治療は生活スタイルの見直しも重要であり、時間をかけて診察して下さる院長先生の存在は、患者さんにとって心強いかかりつけ医だと感じました。

県立広島病院からのお知らせ

2月のがんサロン

開催日 令和4年2月16日(水)

時間 14:00~15:00

参加方法 オンライン形式 ※申し込みが必要です

申込専用/hphchiikirenkei@pref.hiroshima.lg.jp
※当院入院中の方は当院テレビで視聴できます。

- テーマ** • がん専門医が話すがん患者の悩み
～主治医との上手な付き合い方～
• 正しい情報で患者力アップ！
- 講 師** • がん専門医よろず相談所/児玉 哲郎 先生
• 広島県ピアサポーター/清水 聖子 さん
- 対 象** 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族
当院での受診歴は問いません
- 問合せ先** がん相談支援センター
TEL 082-256-3561 (定元)

もみじ

県立広島病院 082-254-1818(代)
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

整形外科



専門診療医による得意治療を紹介いたします。

知っフェナットク！！ 変形性膝関節症による膝の痛み



整形外科 部長
中村 光宏

◆変形性膝関節症とは？

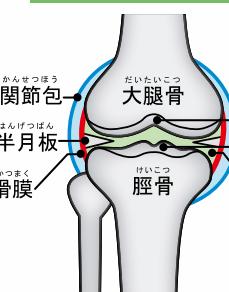
膝の関節において、軟骨の年齢に伴う変化の影響で、骨の変形や関節包の膜(滑膜)に炎症が生じることで痛みを生じ、進行すると膝の曲げ伸ばし、階段の昇り降り、歩行が難しくなり、日常生活を送る上で必要な動作にも支障をきたすようになります。



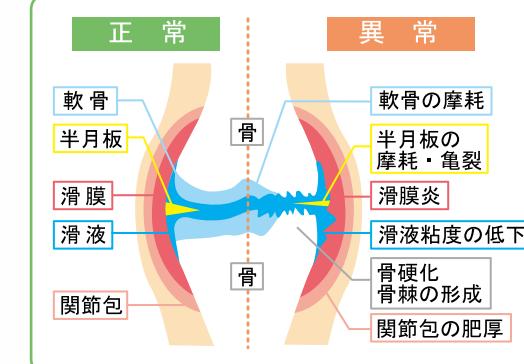
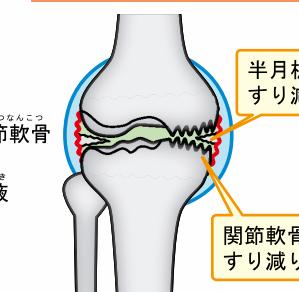
◆原因や症状は？

膝の関節の軟骨が年齢や体重などにより徐々にすり減り、その際に生じた軟骨のかけらの刺激で滑膜に炎症が引き起こされると関節が腫れたり、痛みを感じたりします。またさらに進行すると軟骨の持つ本来のクッションとしての働きができにくくなったり、膝のぐらつき(不安定性)が生じるようになります。関節の周りの靭帯や筋肉が伸び縮みすることで痛みが持続するようになります。膝の不安定性により、さらに軟骨のすり減りや骨の変形が進行し、膝関節の可動域制限や、内反変形(O脚)、外反変形(X脚)といわれる膝関節の変形をきたすようになります。

健康な人の膝関節



変形性膝関節症の人の膝関節



◆検査は？

変形性膝関節症の診断には単純X線検査が有用で、整形外科の外来で簡単に受けることができます。この検査では膝の関節の隙間が狭くなる、骨の端に棘(とげ)のような変形ができる、骨が硬化する、骨が削れるなどの変化を見つけることができます。また下肢全体を撮影することで内反や外反の変形の程度を調べることもできます。



変形性膝関節症のレントゲン写真

次ページに続きます→

